

理論懇ニュース 2020年第3号

2020年12月28日

発行： 理論天文学宇宙物理学懇談会事務局
(東北大天文教室・吉田至順)

理論天文学宇宙物理学懇談会 総会

2020年12月24日 via zoom

- 報告

- 新運営委員会発足および各種選挙
- 学会関係の報告(柳さん)と領域委員の承認(←ここだけ議題)
- 会計報告(富田さん)
- 天文台からの報告(守屋さん)
- 基研からの報告(西道さん)

議事録をつけるため録画します

- 議題

- 理論懇シンポジウム:次回、次々回
- 理論懇ニュース作成の簡単化
- 理論懇シンポデータの保存
- 理論懇資産の使い途
- (冊子「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」)

報告

新運営委員会(2020年12月から)

2021年11月末まで(非改選)

柳 哲文(名古屋大) 副委員長

野村 英子(国立天文台)

西道 啓博(京大基研)

當真 賢二(東北大天文) 委員長

久徳 浩太郎(京大天体核)

よろしく

2022年11月末まで(2020年10月14日～10月21日投票) お願い致します

守屋 堯(国立天文台)

馬場 一晴(福島大)

井上 芳幸(大阪大)

富田 賢吾(東北大天文) 事務局会計兼務

仏坂 健太(東大ビッグバンセンター)

吉田 至順(東北大天文) 事務局長(2019年10月～2021年9月末)

理論懇関係選挙：結果

(10月14日～10月21日投票)

- **APCTP(Asia Pacific Center for Theoretical Physics)日本委員会委員候補**

犬塚 修一郎氏(名大)

(選挙1-3位の横山順一氏、田中貴浩氏、井岡邦仁氏は既に委員継続が決定しているか、あるいは関連委員を務めて来られた経緯があるため、運営委員間で協議し今回は新しい人をお願いするのがよいとの結論になりました。この結果、得票4位の犬塚氏を理論懇として推薦することにしました。)

- **基研運営協議会委員 正候補+補欠を含め順位をつけ2+2名**

1.早田次郎(神大)、2.横山順一(東大)、3.戸谷友則(東大)、
4.犬塚修一郎(名大)

- **基研共同利用運営委員 正候補+補欠を含め順位をつけ2+2名**

1.諏訪雄大(京産大)、2.小林努(立教大)、3.山崎了(青学)、
4.久徳浩太郎(京大)

物理学会関連

- (昨年度)第14回日本物理学会若手奨励賞

宇宙線・宇宙物理領域の受賞者は

理論: **久徳 浩太郎 氏** (京大理)

実験: **小高 裕和 氏** (東大理)

実験: **野田 博文 氏** (阪大理)

2020年春の物理学会で記念講演が予定されていましたが、
2021年春の物理学会1日目(3/12午前)に延期となりました。

物理学会関連

- **第15回日本物理学会若手奨励賞**

宇宙線・宇宙物理領域の受賞者は

理論：**木村 成生 氏**（東北大学際フロンティア）

実験：**榎本 雄太郎 氏**（東大工）

実験：**和田 有希 氏**（理研）

春の物理学会（3月12～15日、online開催）の

1日目（12日）午前に、受賞記念講演が予定されています。

- **2019年春の物理学会から、宇宙線・宇宙物理領域では、「学生優秀発表賞」が行われています。**

注：学会への予稿（講演概要）の提出を義務としています。

(物理学会関連の続き)

- **物理学会の領域委員の推薦**

(任期:2021.10~2023.9、
このうち運営委員兼務 2022.4~2023.3)

小林 努 氏 (立教大) を領域委員として推薦することを
ご承認ください(ここは議題)。

現在の委員は、柳 哲文 (名大) と
馬場 一晴さん(福島大)で、小林さんは柳と交代です。

学会での報告会、他

- 理論懇物理部会（物理学会にて）

2021.3.14(12:50-13:20) online zoom会場

（↑ お昼の時間帯を継続中です。）

2021.9.14-17 神戸大学

- 理論懇天文部会（天文学会にて）

2021.3.XX online開催

2021.9月中旬 京産大及び京大

いずれも、詳細は後日アナウンスする予定です。

会計報告

理論懇事務局 報告

10月より事務局（東北大天文）

2019年度会計：2019年10月1日～2020年9月30日

収入 5,332,562円（繰越金）
78,500円（会費納入のべ43名）

支出 827,108円（理論懇シンポ補助＋現金書留郵送料）
10,857円（若手発表賞表彰状代）
5,458円（レンタルサーバー使用料+振込手数料）
4,312円（レンタルサーバー ドメイン使用料+振込手数料）
305円（領収書代）

計 **4,563,022円**

2020年度会計：2020年10月1日～2020年12月16日

収入 4,563,022円（繰越金）
21,500円（会費振込 のべ8名）

支出 5,458円（レンタルサーバー使用料+振込手数料）

計 **4,579,064円**

残高を減らしていくため、理論懇シンポ旅費補助・学生懇親会補助を拡充することを引き続き継続することが2019年総会で承認されました。

会員数：466名（2020年12月16日現在）

2019年度	新規入会	18名	退会	1名
2020年度（12/16まで）	新規入会	5名	退会	0名

会費滞納者数（前年度までの累積滞納年数）

5年分以上滞納 14名 （←順次督促中）

4年分滞納 21名

3年分滞納 11名

国立天文台報告

■

基研報告

国立天文台報告

天文台全体に関わること

- 執行部

- [台長]常田佐久、[副台長]渡部潤一、井口聖、[技術主幹]満田和久、[研究連携主幹]齋藤正雄

- 国立天文台コミュニティ間意思疎通推進委員会

- 中間報告書が公表された。 ([tennet 19267])

- パブリックコメントは12月22日に締め切られた。

- 2021年1月5日16時よりオンライン説明会。

科学研究部に関わること

人事公募

- 科学研究部（天文台内の規定で着任日までは公式には未公表）
 - 教授（若干名）：未公表
 - 特任教授（1名）：未公表
 - 准教授（若干名）：1名未公表
 - 研究員（系外惑星1名）：選考中
 - 研究員（初期宇宙恒星進化1名）：選考中
 - 専門員（機械学習1名）：選考中
- CfCA
 - 講師：選考中
 - 研究員（大谷さん後任）：公募予定
- 全台
 - 助教（女性のみ）：Maria Dainotti (科学研究部に1月着任)
 - 天文台フェロー：未公表
 - プロジェクト研究員：選考中

人事異動（転出）

- 科学

- 白崎正人（天文台フェロー） → 天文台/
統数研 助教 2020年10月

- CfCA

- なし

人員構成 – 科学研究部 (*はCfCA併任)

- 教授
 - 富阪(2020年度定年)、川邊、野村、大内、梶野 (特任, 2020年度定年)
- 准教授
 - 中村、藤井、町田*
- 助教
 - 浜名、滝脇*、片岡*、守屋*、森野、原田*、Dainotti(1月より)
- フェロー、特任助教、PD
 - 荻原、鈴木、杉山、塚越、高橋、野沢、植田、古家、中島、佐野、松下、荒川、Kim

人員構成 – CfCA (*は科学研究部併任)

- [教授] 小久保*、[助教] 岩崎*、伊藤、[特任専門員]: 波々伯部、福士、[特任研究員] 瀧、石川、[研究支援員]: 加納、坂

共同利用

- 2021年度滞在型共同研究
 - 第1回募集締切：2021年1月22日（金）17時（日本標準時）
 - 第2回募集締切：2021年6月25日（金）17時（日本標準時）
 - 第3回募集締切：2021年9月24日（金）17時（日本標準時）
- 2021年度研究集会
 - 第1回募集期間：2021年1月22日（金）17時（日本標準時）
 - 第2回募集期間：2021年6月25日（金）17時（日本標準時）
- 2021年度国内客員研究員
 - 高橋慶太郎（熊本大）、西村信哉（理研）、川口俊宏（尾道大）
- 2021年度外国人客員（COVID-19のため、募集を延期）
【応募締切】 2021年1月22日（金）17時（日本標準時）
- サバティカル研究者の受入れ（随時）

計算基礎科学連携拠点

- 富岳成果創出加速プログラム

計算宇宙惑星（宇宙の構造形成と進化から惑星表層環境変動までの
統一的描像の構築）

- サブ課題B 星形成と惑星形成をつなぐ統一的描像の構築

小久保，岩崎が参加。

- 実施機関：東北大学，国立天文台，東工大，岡山大

- サブ課題C BHと超新星爆発における高エネルギー天体現象の解明

滝脇が参加

- 実施機関：筑波大学，千葉大学，早稲田大学，国立天文台，
沼津高専

2020-10-27 計算資源利用に関する課題内ワークショップ（第2回）

2020-12-03 高性能計算物理勉強会(第9回)

2021-01-28 「富岳で加速する素粒子・原子核・宇宙・惑星」シンポジウム

CfCA計算機共同利用等

- 2021年度 CfCA 共同利用
 - 2021年1月25日締切
 - 参考
 - XC50のうちXC-S, XC-A, XC-B, XC-MD : 年に2度の利用申請機会があり。2度=[12月末から1月にかけて]及び[6月末から7月にかけて]。詳しくはウェブページ参照。
 - XC-Trial : 随時の申請を受け付けています。
- 2020年度 ユーザーズミーティング[tennet:19172]
 - オンライン開催
 - 2021年1月19-20日
 - 参加申し込みは 2021年1月12日まで。

京都大学基礎物理学研究所報告



第33回 理論懇シンポジウム
オンライン開催
2020年12月24日

理論天文学宇宙物理学懇談会 総会

1. 人事

■ 所員人事

<着任予定>

西岡辰磨 (量子情報、特定准教授)

1.1 東京大学大学院理学系研究科 助教より

■ 拠点プロジェクト非常勤研究員

Copinger, Patrick (原子核、10.1～)

伊藤悦子 (素粒子、10.1～)

松永博昭 (素粒子、10.16～)

■ 研究員

Di Filippo, Francesco (宇宙、11.1～)

Mollabashi, Ali (素粒子、11.16～)

■ 外国人客員教授(2020～2022年度)

2020.11.2～2021.2.16

Balog, János (Wigner Research Centre for Physics:素)

2021.5.1～7.31

Huang, Xu-Guang (Fudan University:核)

2021.9月～11月

Armoni, Adi (Swansea University:素)

2021年度中

Dhar, Abhishek

(Tata Institute of Fundamental Research:物)

2022年度

Josè Marià Martìn Senovilla

(University of the Basque Country:宇)

2. 滞在型プログラム

「クォーク・ハドロン科学の理論研究の新たな
展開を目指す国際共同研究プログラム」



オンラインと会場とのハイブリッドなど新しい開催方法を導入

2.1 国際モレキュールプログラム

随時応募受付中

2020年度(1月以降)

- ***“Fast Radio Bursts: A Mystery Being Solved”***
2021.2.8~2.19 Bing Zhang、井岡邦人、檜山 和己
- ***“The Schwinger Effect and Strong-Field”***
2021.1.18~1.29 Antonino Di Piazza、Francois Gelis
Takashi Oka、Patrick Copinger

2.2国際滞在型研究会



2021年度

- **“Novel Quantum States in Condensed Matter 2021”**

2021.11.1～12.3 組織委員長:遠山貴巳

- **“Gravity and Cosmology 2021”**

2022.1.31～3.4 組織委員長:向山信治

YKIS2021 “Gravity - The Next Generation-” と連動

2022.2.14～2.1

2022年度

- **“Mean-field and Cluster Dynamics in Nuclear Systems 2022 (MCD2022)”**

2022.5月～6月 組織委員長:中田 仁、板垣直之

YKIS2021 “Developments in Physics of Unstable Nuclei”

と連動

3. 2020年度研究計画 (一般共同利用他:1月以降)

オンライン開催や、オンラインと会場とのハイブリッドなど、
京都大学の活動制限ガイドラインに応じた開催方法で実施
活動制限ガイドラインがレベル2(-)で会場利用可能

2021年

1/5-1/8

場の理論の量子計算

2/1-2/12

Mini-school on advanced topics in quantum information theory and foundations

3/1-3/5

量子情報理論に基づく理論物理の新展開

3/8-3/10

Hadron in Nucleus 2020 (HIN20)

3/16

京都量子暗号ワークショップ

3/17-3/19

若手による重力・宇宙論研究会

3/24-3/31

場の理論の A_∞/L_∞ 代数とその応用

4. 2021年度研究計画 (2020年度からの繰越計画)

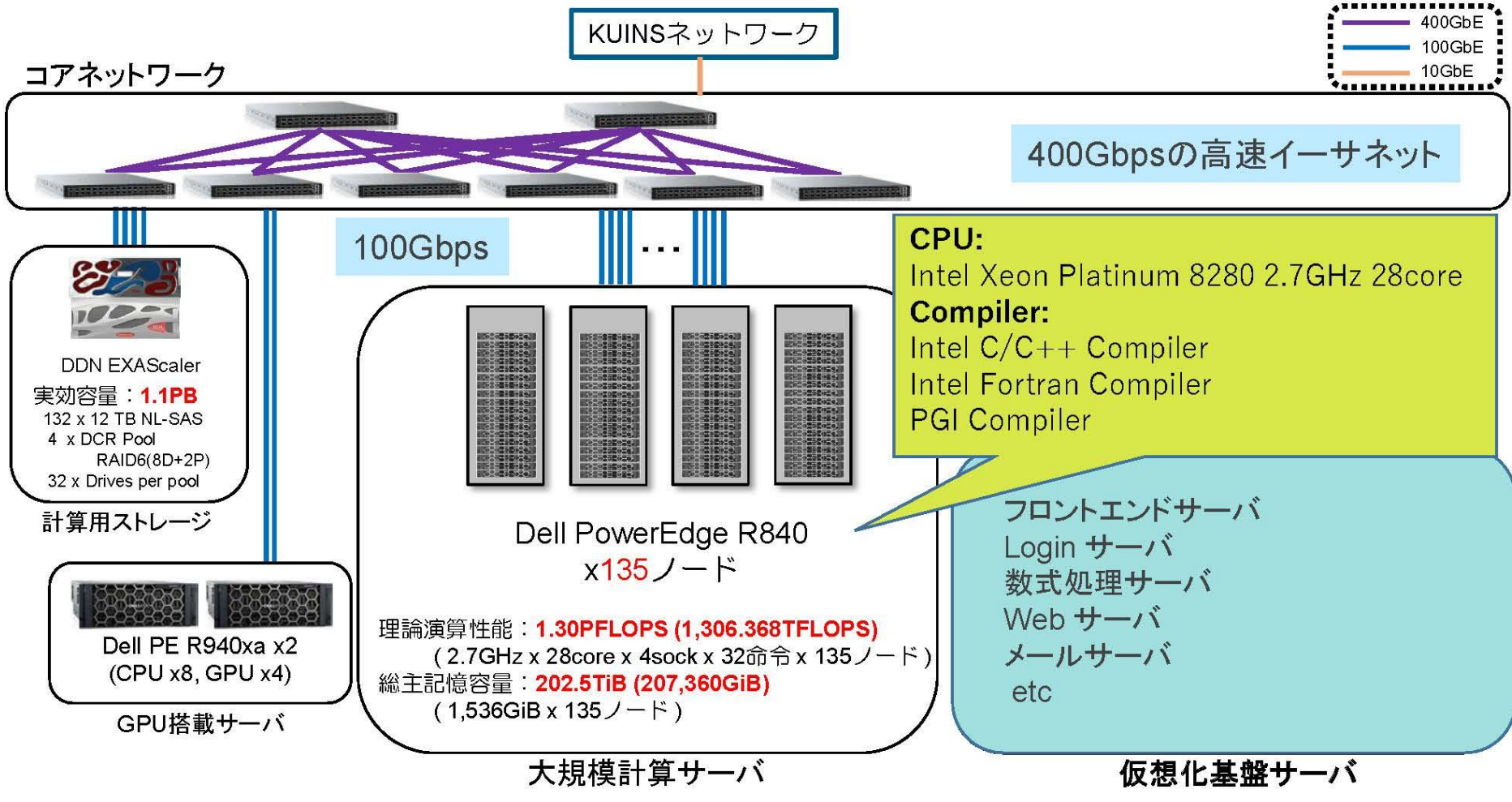
- 10月 物質のトポロジカル相の理論的探究
- 10月 QCD phase diagram and lattice QCD
- 10月 Japan-France joint seminar on "Physics of nonequilibrium systems: from dense disordered materials to active matter"
- 9月 25th Anniversary Symposium of German-Japanese Joint Research Project on Nonequilibrium Statistical Physics Perspectives for Future Collaboration

(*1) その他の2021年度計画は、1月に決定。

(*2) 2021年度から、オンライン開催やハイブリッド開催も申請可能に。web会議システムのアカウント購入なども支援。

5. 次期計算機システム

基礎物理学研究所 理論物理学電子計算機システム 2021年1月 稼働開始予定



国内機関に所属する理論物理学研究者、一時的に海外の研究機関に所属する日本人若手研究者に無料提供。ぜひご利用ください。

6.コロナ禍における共同利用事業

■ 共同利用事業予算の修正

滞在型研究会やYKISの中止などを踏まえ、2020年度事業予算を修正。オンライン整備費を計上。拠点プロジェクト研究員の雇用に転用。

■ 拠点プロジェクト研究員の採用

共同利用に資するポスドクとして、共同利用研究計画を応募書類に含めることを条件に公募し3名を採用。2021年度の採用に向けて公募を計画中。

■ 共同利用の将来計画検討

コロナ禍における基研の役割と将来計画を議論する共同利用将来計画委員会を設置。

6.コロナ禍における共同利用事業(続き)

■ 共同利用研究会の計画変更への対応

2020年度研究会：開催6週間前まで計画変更を受け。
翌年度への延期も可能。

2021年度研究会：オンラインやハイブリッドによる実施
計画、web会議システムのアカウント購入予算も申請可。

■ 滞在型プログラムのハイブリッド・オンライン開催

コア外国人研究者のオンライン参加、ハイブリッドやオンライン開催も可能。

■ 2021年度共同利用事業

コロナ禍の継続が予想されることから2020年度に議論・
決定したルールや対応を準用。

7. 運営関係

■ 第14回湯川記念財団・木村利栄理論物理学賞

受賞者 福嶋 健二（東京大学大学院理学系研究科）
授賞式と講演 2021年1月20日（水）

■ 所長・副所長について

所 長 青木 慎也（2019年4月1日より任期2年）
副所長 早川 尚男（2020年4月1日より任期1年）

■ 委員会

共同利用運営委員会 2021年1月21, 22日
運営協議会 2021年1月22日、2021年5月14日

7. 運営関係(続き)

- **運営協議会委員** 2019年4月1日より任期2年
基研の運営全般(人事、予算など)について実質的に決定

戸谷 友則(東大) 田中 貴浩(京大)

<所内> 柴田 大、向山 信治、井岡 邦仁

- **共同利用運営委員** 2019年4月1日より任期2年
基研研究会、滞在型研究会などの採択と予算配分を決定

早田 次郎(神戸大) 山崎 了(青学大)

<所内> 樽家 篤史

議題

最近の理論懇シンポ

- 2011 国立天文台 「理論天文学・宇宙物理学の革新」
 - 素粒子から天文、重力波にいたる分野の招待講演
- 2012 筑波大 「計算宇宙物理学の新展開」
 - 計算宇宙物理+ α で各分野の招待講演
- 2013 IPMU 「2020年代を見据えた理論宇宙物理・天文学」
 - 大規模・中規模の観測計画の中で理論天文学の役割を議論。各分野の招待講演
- 2014 国立天文台 「理論天文学・宇宙物理学と境界領域」
 - 素粒子・原子核から高エネルギー天文・星惑星形成・計算機科学にいたる分野の招待講演
- 2015 大阪大学 「宇宙における天体形成から生命まで」
 - 星・惑星形成、元素合成、化学進化、地球科学等に関する分野の招待講演
- 2016 東北大学 「重力が織りなす宇宙の諸階層」
 - 修正重力・統一理論から天体力学まで、重力が関係する幅広い分野の招待講演
- 2017 東京大学 「星の物理の新地平」
 - 幅広い意味での星の物理に関する招待講演
- 2018 京都大学 「宇宙物理の標準理論：未来へ向けての再考」
 - 宇宙物理学各分野のエキスパートによる標準理論の招待講演
- 2019 国立天文台 「天文学・宇宙物理学の変遷と新時代の幕開」
 - 未解決課題と新たな課題，そして新時代の理論研究が目指すべき方向性について議論
- 2020 名古屋大(オンライン) 「理論天文学・宇宙物理学のブレイクスルー」
 - 直近に起こった各分野のブレイクスルーをレビューし、将来研究の指針を議論

来年度シンポ

場所：東大宇宙線研究所＋IPMU

日程(候補)：2021年12月22日(水)－24日(金)

テーマ：“挑戦的アイデアで広げる宇宙物理の可能性”

LOC: 浅野勝晃(chair)、川崎雅裕、田越秀行、川口恭平、衣川智弥、高田(IPMU)

SOC: 当真賢二(chair)、柳哲文、野村英子、西道啓博、久徳浩太郎、守屋堯、馬場一晴、井上芳幸、富田賢吾、仏坂健太、吉田至順

財源：理論懇予算、天文台研究集会(2021年1月締切)、など

概要：現在の理論天文学・宇宙物理学は、大規模な装置による観測や大型計算機による数値シミュレーション、そして大型科研費の計画的研究を実行し、各分野の大問題の解決に向けて着実に成果を上げている。一方で、ダークマター・ダークエネルギーの正体等、未だ糸口さえ見つからない問題があることは事実である。また多くのシニア・若手研究者が計画的研究に注力することで、その分野の考え方の幅が狭まっていく恐れもある。このような状況では、大規模な計画的研究を進める傍ら、別の多種多様な研究テーマや方法を探り、ダイバーシティを維持しておくことが肝要であろう。それにより予想外の観測結果に対応したり、学際研究によって新しい突破口を見出したりすることが可能となる。本シンポジウムでは、様々な分野のエキスパートを招いて各分野の進展をレビューしてもらうことに加え、その方々の挑戦的なアイデアあるいは国内外の新奇な研究の試みについて紹介していただき、多様な議論を行うことを目的とする。

なお、幅広いトピックの口頭講演およびポスター発表も例年通り募集する。また博士取得見込みの者に優先的に発表の機会を与え、若手発表賞も実施する。

来年度以降

- 基研—本郷—基研—立教—京大(宇物)—天文台—名古屋—基研—天文台—筑波大—IPMU—天文台—阪大('15)—東北大('16)—東大('17)—基研('18)—天文台('19)—名古屋('20)—ICRR+IPMU('21)
- 理論懇メーリングリストにて2021年以降の開催地の立候補を募集(先々週)
 - 2022年は福島大が立候補

次々回シンポ候補

- 立候補 LOC chair: 馬場一晴(福島大) + 大学院生5名、学部生(+ 東北大ヘルプ?)
- 会場仮押さえ 2022/12/21-25
JR福島駅から徒歩3分の複合施設「コラッセふくしま」
 - 費用:
 - ・4階フロア全体使用料: 約86,900円/1日
 - ・多目的ホールプロジェクター及びスクリーン(200インチ)使用料: 3,850円/1日
 - ・多目的ホール講演台使用料: 550円/1日
 - ・ポスターボード(システムパネル)(縦210cm×横90cm)使用料: 1枚165円/1日
 - ※「約50枚(両面を使用して100名分)」まで借りられるとのことです。
 - > 以上を3日(4階フロアのみ会議前日を含めて4日)借りた場合の総費用: 約298,650円(約385,550円)
- 理論懇資産(＋天文台からの補助)から全額支出したい。OKか?
 - 地方大での開催促進、社会貢献にもなる
 - 福島県あるいは福島市から補助があるかも

要承認

事務局ローテーション

3Nルール

「常勤(任期5年以上)の理論懇スタッフが **3N 人以上** いる研究機関は、一回のローテーション中で N 回担当する。ここで N は零以上の整数。事務局の任期は1年ごとの持ち回りで、10月1日から翌年9月30日までとする。」

$N \geq 2$ に直ちに該当するのは。。。

{ N=3 国立天文台科学研究部

{ N=2 名大理、東大物理・RESCEU合同、東北大天文、筑波大物理、東大柏 (ICRR/IPMU)

ローテーション(確認)

東大天文-->東大柏(2年) --> 弘前大--> KEK --> 山形大--> 理研
-->京大天体核--> 京大宇物 --> 東北大天文(2年、今2年目)
-->名大物理(2年)-->東大教養 --> 京大基研
-->東大物理・RESCEU合同(2年)-->阪大宇宙進化
-->国立天文台科学(3年)--> 筑波大物理(2年)
-->千葉大物理 -->東工大物理・地惑--> 東大天文 にもどる

理論懇ニュース作成の簡単化

理論懇ニュース 2020年 第1号

2020年1月 日

発行： 理論天文学宇宙物理学懇談会事務局（東北大学天文教室）

第32回理論懇シンポジウムでの理論懇総会議事録要録

日時・場所

2019年12月26日 17:10-18:45

国立天文台三鷹キャンパス すばる棟1階 大セミナー室

報告

1. 新運営委員会発足及び各種選挙
2. 学会関係の報告と領域委員の承認(ここだけ議題)
3. 会計報告
4. 天文台からの報告
5. 基研からの報告

議題

1. 天文天体物理若手学校への補助
2. 来年度の理論懇シンポジウム
3. 事務局ローテーション
4. 理論懇予算の使徒
5. 日本における天文学宇宙物理学の理論研究
6. 国立天文台の成果と将来シンポ

報告

1a. 新運営委員会

2020年11月未まで (非改選)

- 現在、総会・学会での報告資料pptを事務局がテキストファイルに文字起こしている(左図)。
- 元のpptを活用するのがよいのでは
 - 利用しないのは勿体ない
 - 元のpptの方が見やすいという意見
- 提案
 - 報告資料pptをpdf化したもの＋議論/議決内容テキストをrironkon.jpにアップ

要承認

理論懇シンポデータの保存

- rironkon.jp/rironkon_sympo.htmlからいくつかのシンポHPへのリンクが切れている(第20, 25, 28回)
- 提案
 - シンポのタイトル・趣旨・プログラム・参加者リストのpdfを各開催機関から受け継ぎ、rironkon.jpに保存
 - 開催から2、3年は講演スライドも利用されると思われるので、開催時のシンポHPは2、3年開いておく。

要承認

理論懇資産の使い途

資産~500万。2015年総会時に10年かけて200万まで減らすと決議

2019

- + 旅費補助(学生・PD+招待講演者、日当なし)60万前後
- + 懇親会費学生補助(参加費500円): 16万2千円
(懇親会参加率上昇 59%[2018] -> 70%[2019])
- + 総会において、これら補助拡充を継続することを決議

今回はオンライン開催だったので、補助しなかった。天文台からの補助は全額返還(9月末)

どうするか？

- コロナ安定化まで予算消費を諦める。安定後に決議通り進める

要承認

冊子「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」

- + 3年おきに各研究機関に紹介文を依頼 (1995~)。
- + 運営委員がまとめてPDF化し、理論懇webサイトに掲載
- + 2019年に最新の第9号を発行
- + 2019年の総会で廃止を提案(各機関へのリンク集でよいのでは)
- + 反対意見
 - 3Nルールを調べる際などに構成員を調べやすい、ソートしやすい
 - 学生に各機関の教育内容を伝えやすい

代替措置

- rironon.jp上に
[機関名] [構成員] [機関へのリンク or 紹介pdf][〇〇年更新]の
リスト(html, or excelファイル or overleaf?)を置く

決定事項・議論・提案

決定事項

- 物理学会領域委員推薦 小林 努(立教大) → 承認
- 2021年度理論懇シンポジウム
テーマ:“挑戦的アイデアで広げる宇宙物理の可能性”
東大宇宙線研+IPMU 2021年12月22日(水)-24日(金) → 承認
- 2022年度理論懇シンポジウム 福島大学
会場費全額を理論懇から補助 → 承認
- 理論懇ニュース作成簡単化(発表資料を使用)
→ 承認(今回から)
- 過去のシンポジウムWebページの保管 → 承認
- コロナ禍における資産の使用方針 → 承認

冊子「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」

各機関へのリンク・Web上のPDFファイル等への簡略化を検討

意見：

- 情報を最新に保てるのか？更新頻度はどれくらい？
- 過去の履歴を保持するためにPDFは定期的に保存する？
- Google document, spreadsheet等のWebサービスの利用？
- 冊子が役に立ったことがある？ Yes 約20%

→ 継続審議

議論・提案

- 井岡(京都大学): 基礎物理学研究所は共同利用拠点となっていて、その次期応募が近々行われる。その前にコミュニティからのサポートレターをお願いしたい。
→ 理論懇運営委員長を中心に作文
- 片岡(天文台): 次回以降の理論懇シンポジウムについて、対面開催が可能となっても、オンライン開催の良い面を取り入れてハイブリッドでの開催はできないか。
→ LOC及び運営委員会で検討